慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	改革開放後の新語における比喩的用法：日中同形語"新干綫"(新幹線)小考
Sub Title	On the figurative senses of new words after the Open-door policy : a study on "Shinkansen" of the homograph between Japanese and Chinese
Author	赤平, 恵里(Akahira, Eri)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2006
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.90, (2006. 6) ,p.120(149)- 141(128)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00900001-0141

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

改革開放後の新語における比喩的用法

— 日中同形語 “新干线”（新幹線）小考 —

赤平　恵里

1. はじめに

改革開放以来、中国の著しい経済成長がいわれ続けて久しい。それに伴う人々の生活・観念などの社会変化により、言語も日々確実に変化している。

書店へ足を運べば、新語辞典が幾冊も並べられている光景を目にするが、実際、1987年から2004年までで55冊以上もの新語関連の辞典が出版されている。これはそれだけ多くの新語がうまれていることを物語っており、新語の研究は現代中国語の現状さらには中国社会を知る近道といえる。

我々日本人が中国語に触れる際、日中両国語で同様の表記をする語、すなわち日中同形語は、同形であるからといって意味・用法も同じとは限らず、便利なようで厄介な存在である。日中同形語については、今日まで様々な研究がなされ、既に大きな成果があげられているが、新語に限定した研究はまだ多くは進められていないようである。近年、この同形語の中の “新干线”（新幹線）という言葉、日本の高速鉄道「新幹線」が、中国語の中で乗り物としての「新幹線」とは別の意味で比喩的に用いられていることが指摘されている[1]。比喩とは、その語のイメージを如実に表すものであり、その国の言語文化を知るのに最適なものである。そこで、本稿では、新語の中の日中同形語で比喩的語義をもった語、“新

干线”に焦点をあて、新聞などの使用例から比喩的語義の出現時期・誕生背景や用法を検討し、中国語新語の実態と社会文化的背景について考えていきたい。

2. 日中同形語と新語

本題に入る前に簡単ではあるが、日中同形語と新語の定義について触れておく。

日中同形語とは、“人脉”（人脈）・“量贩店”（量販店）など文字通り日本語と中国語で同形の語を指す。その際、簡体字・繁体字といった漢字の字体の違いは問題にせず、全て同形語として扱う。

新語の定義については諸氏で見解が異なる[2]が、①「今までになく新たにうまれた語〔“物语”（物語）など〕」・②「新語義または新用法のうまれた語〔“充电”（充電）など〕」・③「近年復活した古語〔“公务员”（公務員）など〕」を一般に指す。管見の限りでは、大半の学者がこの説を支持しており、近年の新語辞典もこの見方から編集されている。また、日本語学でもこの観点から新語を捉えている[3]ようであるので、本稿では改革開放後、1978年12月以降何らかの変化が生じた語、つまり上述の①・②・③全てを新語とする。

3. 新語における比喩的語義

一部の調査によれば、比喩的語義の派生した新語はさほど多くはないようである[4]。しかし、姚汉铭《新词语・社会・文化》や杨华《汉语新词语研究》といった新語の専著では、比喩的語義の派生した語について必ず触れており[5]、軽視できない特徴の一つといえる。

この比喩的語義のうまれた語は、日中同形語からみても捨て置くことのできないものである。筆者が新語辞典[6]から日中同形語を収集し、日中の語義の相違による分類を行った結果、「新語の語義が日本語と異なる場合は、もともと日本語と同じ意味があったが、新たに違う意味をもつようになったものが多い。かつ、その新語義は比喩的な意味であることが

多い。」ということが明らかになった。実例を以下にあげる。

＜例＞**包装**

商品に上包みをかけること。〔日中共通語義〕

→〔新語義〕人や事物を美化し、吸引力、商品価値を高めさせること。

新生代

地質年代のもっとも新しい時代。〔日中共通語義〕

→〔新語義〕新たに出現した実力のある、特徴ある若者。新たに出現した事物を表すこともある。

この他にも、“冰点”・“登录”・“副作用”・“高地”・“猫”・“免疫力”・“脱帽”・“学费”・“眼球”・“余热” など多くの語がそのような特徴を備えている。

改革開放後の社会変化を受けて新語義のうまれたこれらの語は、世相をよく表している。したがって、こういった語を深く理解することは、日本と異なる中国の言語文化・社会背景の理解にもつながり、意義のあることにちがいない。次に“新干线”一語に絞り、比喩的語義のうまれた語に対し考察を続ける。

4. “新干线”

“新干线” は周知のごとく1964年に開通した日本が誇る高速鉄道であり、「新干线，日本的高速铁路，开始是专名。日语音为shin-kansen。(新幹線、日本の高速鉄道で、初めは固有名詞であった。日本語での発音はshin-kansenである。)[7]」というように日本語からの外来語である。日本語にはない比喩的語義について、一部の新語辞典[8]では、以下のように述べている。

新干线　原指新的铁路、公路主干线。比喻经济文化等方面建设的最快消息。来自日语。

もともとは新しい鉄道、道路の主な幹線を指す。経済文化などの方面の最も速い情報をたとえていう。日本語からきたものである。

「経済文化などの方面の最も速い情報」とは具体的にはいかなるもので、これ以外に用法はないのだろうか。以下、用例をあげ、この語義について検証する。

4-1. 語義の増加

“新干线”の語義について他の辞典により詳しい説明がないのだろうか。現時点では、新語辞典などではない、一般的な中国語辞典には、“干线”は収録されていても“新干线”は収録されていないようである[9]。

“干线”という語も日本語の「幹線」からきたようだが[10]、この語は、下記の例をみればわかるように

・干线　交通线、电线、输送管（水管、输油管之类）等的主要路线（跟“支线”相对）。（《现代汉语词典》第5版[11]）

交通線、電線、輸送管（水道管、油送管の類）などの主要な道筋（「支線」と相対する）。

・幹線〔鉄道・道路・電話などで〕主要地点を結ぶ、大切な線。本線。「新—・—道路」↔支線（『新明解国語辞典』[12]）

と日本語の「幹線」と同じように用いられている。

そもそも新幹線は、「東海道新幹線が語源[13]」であり、在来の東海道・山陽本線と別に設けられた路線である。つまり、「新しい幹線を引く」ところからついた名で、「日本の在来線に代わる新しい幹線鉄道路線の総称[14]」とあるように「新しい幹線」という意味が列車自体の意味へと定

着していったものと考えられる。

このため、いわゆる乗り物の「新幹線」が出現する以前は専ら「新しい幹線」の意味で使われている。

つまり、“新干线”の語義は大別すると、①「新しい幹線」・②「新幹線」・③「比喩的語義」の3つに分けられるわけだが、③はいつ頃出現し、どの程度使用されているのだろうか。1946～2005年の《人民日报》[15]の“新干线”の使用例を①・②・③の意味ごとに分類し、その意味の変遷をみてみよう。なお、比喩には、「その表現の文字どおりの意味を否定する意識，あるものを他にたとえようとする修辞意識があるかどうかはっきりしない場合[16]」がある。この比喩のもつ曖昧性により①か③かの区別が中国語母語話者にとっても難しいものが一部あった。他の資料をあたりできる限り正確に分類したが、人によってはこの結果に多少違いがでてくる可能性もあることを申し添えておく。

表1（次頁上）から明らかなように新幹線が開通する以前、1946～1960年は①「新しい幹線」の意味で使われている。(1) がその一例である。（以下、太字強調は筆者）

(1) 新建的道路一共有六十一条。其中包括自西直门到颐和园长达十一公里的**新干线**。（《人民日报》1953.6.1）
新たに建設する道路は全部で61本ある。その中には西直門から頤和園までの長さ11kmに及ぶ**新しい幹線**も含まれている。

文脈から、新設の道路の一幹線を“新干线”で表現していることが明らかである。これは《人民日报》における“新干线”の初出の例である。同紙では、1964年に新幹線が登場しているにもかかわらず、(1) の用例から時を隔てて20年ほどしてようやく、日本語と同義の②「新幹線」での使用例が出現する。

表1.《人民日报》(1946-2005)の使用例			
	新しい幹線	新幹線	比喩
1946-1950	0	0	0
1951-1960	9	0	0
1961-1970	0	0	0
1971-1980	4	26	0
1981-1990	6	40	0
1991-2000	14	79	6
2001-2005	8	29	7

表2.《人民日报》(1996-2005)の使用例			
	新しい幹線	新幹線	比喩
1996	0	9	0
1997	3	9	0
1998	0	8	0
1999	2	8	1
2000	2	7	4
2001	1	3	2
2002	2	6	0
2003	3	8	0
2004	2	7	1
2005	0	5	4

(2) 日本全国各地的国营铁路主要干线，除了个别**新干线**之外，都举行了二十四时罢工。(《人民日报》1976.3.23)

日本全国各地の国営鉄道の主要幹線は個々の**新幹線**を除いてみな24時間ストライキを行った。

(2) の用例が出た後、つまり1976年以降は、②「新幹線」の意味で用いられることが2005年まで一貫して多くなっている。1994年あたりからは③「比喩的語義」でも使われるようになり、①「新しい幹線」の意味と同じぐらいの割合で用いられている。(3) が当該紙における初出の例である。

(3) 正因为信息高速公路有这么大的作用，1993年9月，美国提出用20年时间，投资4000-5000亿美元，建设信息高速公路的计划，同年，欧共体宣布投资1500亿欧元建设“欧洲信息空间”，日本宣布投资9500万美元研究“信息流通**新干线**”，……。(《人民日报》1994.7.18)

情報スーパーハイウェイにこのような大きな効果があるのをう

け、1993年9月、米国は20年の時間をかけて4000～5000億ドルを投資し、情報スーパーハイウェイを建設する計画をうちだした。同年、EUは1500億ユーロを投じて「汎欧州ネットワーク」を建設することを発表し、日本は9500万ドルを投じて「情報スーパーエクスプレス」を研究することを明らかにした……。

このような③「比喩的語義」での使用例はまだ少ないが、表2の2005年だけをみると、②「新幹線」の意味での使用例の数とさほど変わらない。

「言語は社会を反映する」とはよくいわれるが、この使用例からみた意味の変遷の結果は、日中の言語交流と社会背景を如実に表している。日中の言語交流史を簡単に追う。

日本と中国の交流の歴史は日本人誕生の時から始まっているといわれるほど古い。尤も近代（19世紀末）以前は、日本が中国から先進文化を取り入れるという単一方向の交流であり、言語の交流もほぼ中国語語彙が日本語語彙に取り入れられるという一方向であった。

しかし、近代になると、この交流の流れは逆転する。中国は日清戦争（1894～1895年）での敗北を機に日本から科学技術を学ぶようになり、技術とともに日本語から大量の外来語が伝わるようになる。

けれども、この流れも長くは続かない。1949年、中国共産党の新政権樹立後、中国はソ連との結びつきが強まり、欧米とは対立関係に陥る。そのため、日本との関係も疎遠になり、交流が途絶えることとなる。その後、1970年代の日中国交正常化・文化大革命の終結、改革開放の対外開放政策で、再び日本語からの外来語が取り入れられるようになるのである。

つまり、「新幹線」が1964年に開通しているにもかかわらず、10年以上の時を経てようやく《人民日报》に掲載されるのは、日中の言語交流そのものが途絶えていたからなのである。②「新幹線」での使用例が一気に増えた1970年代以降、具体的にいえば1976年以降は、日中国交正常化（1972年）・文化大革命の終結（1976年）・改革開放（1978年）の時

期であり、言語交流が回復した時期と重なっている。改革開放の次に経済発展の節目となったのが、1992年の南巡講話である。これにより、社会主義市場経済がうまれ、以降経済成長率も大幅に伸びてきているわけだが[17]、90年代以降③「比喩的語義」で用いられるようになった背景は、こうして経済成長を遂げ、サービスの質の向上にも目を向けるようになり、迅速化・効率化に力をいれるようになったためであろう。

さて、意味の変遷についてはこの《人民日报》一紙の60年間の記事から理解できるが、③「比喩的語義」での使用頻度については、同紙において話題にならないだけという可能性もあり、これだけでは不十分である。そこでさらに他紙における③「比喩的語義」での使用件数を調査した。

表3.《文汇报》の使用例

	新しい幹線	新幹線	比喩
2005.1.1-12.31	1	7	12

表4.《人民日报报系》の使用例

	新しい幹線	新幹線	比喩
2005.1.1-12.31	3	34	32

《文汇报》[18] 2005年1月1日～12月31日の記事の検索結果は表3の通りである。こちらでは《人民日报》とは異なり、②「新幹線」の意味よりも③「比喩的語義」での使用が多いことがわかる。

《人民日报》を除いた《人民日报报系》[19]の2005年1月1日～12月31日の検索結果では、表4のように《人民日报》と同様②「新幹線」と③「比喩的語義」がほぼ同じ割合で用いられている。

このように各紙でずれはあるものの、“新干线”が近年比喩的な意味で用いられているということは確認できる。

以上から、“新干线”は①「新しい幹線」・②「新幹線」・③「比喩的語義」の順に語義がうまれ、現在は3つの共存状態にあるといえる。

4-2. 新幹線の話題性

4-1の《人民日报》·《人民日报报系》での調査結果において②「新幹線」の意味で用いられている例が多数あったが、その中で多く目についたのが、中国の要人の日本訪問や日本旅行に関する記事での「新幹線に乗って移動した」という記載である。一移動手段にすぎない「新幹線」を具体名をあげてわざわざ明記するのは興味深い。「新幹線」に対する特別の思い入れがあるのだろうか。

外国人の日本観光の目的は、富士山・桜・新幹線だという。中国人の場合はどうだろう。ここに中国人の「新幹線」に対する見方を知ることのできる資料がある。『中国消費者の生活実態—サーチナ中国白書2005～2006—』[20]によれば、海外旅行に行きたい国として日本をあげた575人を対象にしたアンケートで、日本でやってみたいこととして「新幹線に乗る」を回答した人は63.65％にのぼるという。さらに北京の男性のみに対象を限定すると、新幹線に乗りたいという人は100％にまで増える。これをみる限り、「新幹線」が日本といえば連想されるもので、なおかつ好印象のものであるようである。

また(4)は東京について述べた記事ではあるが、ここからも日本に対するイメージとして新幹線が思い浮かぶことが窺える。

(4) 说起东京，人们自然会联想到高耸人云的摩天大楼，四通八达的地铁，穿梭于地上的**新干线**，行色匆匆的上班族。(《环球时报》2004.4.2)
東京といえば、空高くそびえたつ摩天楼、四通八達の地下鉄、地上を頻繁に行きかう**新幹線**、出勤でせわしいサラリーマンを自ずと連想するだろう。

それにしても“新干线”という言葉に本家本元の日本にはない比喩的な意味がうまれ、様々なところで使われているのは、日本人の語感からすると些か妙である。高速鉄道は他にもあるのになぜあえて「新幹線」

なのか。高速鉄道に関する記事をあげてみる。(5) は世界各国の高速鉄道について述べている文章である。

(5) 目前，除法国的高速铁路外，还有日本的**新干线**、德国的城际快车、意大利的高速铁路线在运行。(《人民日报》1995.1.20)
目下、フランスの高速鉄道以外には、日本の**新幹線**、ドイツの都市特急、イタリアの高速鉄道が運行されている。

ここでの“法国的高速铁路”（フランスの高速鉄道）はTGV、“德国的城际快车”（ドイツの都市特急）はICE、“意大利的高速铁路”（イタリアの高速鉄道）はペンドリーノを指していると考えられるが、具体的な鉄道名は言及されておらず、日本の新幹線のみ原語のまま使用されている。これは、他国の電車名がローマ字表記で意味が伝わりにくいのに比べ、日本の列車「新幹線」は、漢字表記であるのでわかりやすく問題なく用いることができるためであろう。また、日本の「新幹線」がよく知られているということも暗示している。

さて、(5) に記載されているように高速鉄道として世界的に有名なものとしては、フランスのTGV、ドイツのICEがある。新幹線と比べ、これらはどれくらい話題になっているのだろうか。TGVが1981年、ICEが1991年に開通しているので、そのあたりの年から2005年までの《人民日报》を用い、記事件数を調査した。ここでは鉄道としての話題性をみるため、新幹線については②「新幹線」の意味で用いられているもののみを対象とした。

表 5.《人民日报》における世界の鉄道の使用例

	新幹線	TGV	ICE
1987-1989	5	1	4
1990-1992	15	0	0
1993-1995	28	2	2
1996-2005	70	6	1

表5から、TGV・ICEと比較して、新幹線が圧倒的に多く話題にのぼっていることは一目瞭然である。この中には、前述したように中国の要人が日本を訪問した際に新幹線に乗った記事などもあり、日本と中国が隣国同士で交流が多いということも当然関係するだろう。しかし、それを考慮しても他の高速鉄道に比べ、新幹線が話題になりやすいということは確認できる。話題にのぼればのぼるほど認知度も高くなる。比喩は、「物事を説明するとき、相手のよく知っている物事を借りてきて、それになぞらえて表現すること。[21]」である。したがって、比喩的語義がうまれるには、もとの意味が定着しており、知られていることが条件であるが、こうした「新幹線」の話題性・認知度の高さが比喩的語義の誕生の一要因であろう。

4-3. 新幹線のイメージと比喩的語義

“新干线”の比喩的語義は、冒頭にあげた辞典によれば、いわゆる高速鉄道の「新幹線」から派生している。日本の「新幹線」のもつイメージを探り、それが比喩的語義の誕生にどうつながっているのかを明らかにしたい。次にあげる(6)～(10)は高速鉄道の「新幹線」に関する感想などを述べている。(以下、下線強調は筆者)

(6) 这一次，我确感到日本人的节奏<u>太快</u>，有点像**新干线**、像地下铁道站里的人群，你追我赶，为了抢时间却使人忘记时间，……。(《曹禺全集》[22])

今回、私は確かに日本人の生活リズムは<u>速い</u>と思った。それは些か**新幹線**に似ており、また地下鉄の駅構内の人の流れのように追い抜いたり追い抜かれたり、一刻を争うためにかえって人に時を忘れさせるようだ……。

(7) 中国人对日本电车最熟悉的莫过于“**新干线**”了，这条贯穿日本列岛的主要轨道交通干线，由于<u>高速</u>、<u>安全</u>和<u>舒适</u>，在世界上享

有很好的声誉。（国际在线-世界新闻报2005年3月1日第203期）
中国人が最もよく知っている日本の電車といえば「**新幹線**」である。この日本列島を貫く主要な軌道の交通幹線はその速さ、安全性、快適さにより、世界においてすばらしい評判を得ている。

(8) 年前去日本，坐了趟**新干线**。它的快捷、平稳固然令人感叹，但更让我想不到的是它的厕所……。（《人民日报》2003.1.25）
昨年日本に行き、**新幹線**に乗った。その速さ、静かさにはもとより感嘆させられたが、それより意外だったのはトイレである……。

(9) 就说乘**新干线**火车吧。10年前我乘过，觉得快捷、准点、安全、舒适。（《人民日报》2003.8.22）
新幹線については、10年前に乗ったことがあるが、速くて、時間通りで、安全、快適だと思った。

(10) 在前往京都访问时邓小平还专门乘坐了**新干线**列车。在飞速的列车上，陪同人员问邓小平的感受，他爽快地回答说，速度快，满舒适，干什么事都要有速度哟！（《人民日报》2003.10.31）
京都訪問に向かう際、鄧小平はわざわざ**新幹線**にも乗った。飛ぶように速い列車内で、随行員が鄧小平に感想を訊くと、彼ははっきりと答えた。「速度が速く、なかなか快適だ。何をやるにもスピードが必要だよ。」

下線部が「新幹線」のイメージである。下線部を参考にし、中国における「新幹線」のイメージをまとめると、「速い」・「時間に正確」・「安全」・「快適」・「静か」であり、とくに「速い」というイメージが強いようである。こういったイメージが比喩的語義にどのように反映されてい

るのか。“新干线”の使用範囲ごとに例をあげ、比喩的語義に隠されたイメージを検討する。

❶ サービス名

(11) “服务**新干线**”是借用日本“**新干线**”高速列车的概念，突出一个“快”字，即对顾客的要求迅速反应、快速行动。(《四川日报》2003.9.24)

「サービス**新幹線**」は日本の「**新幹線**」高速鉄道の概念を借り、「速い」ということを際立たせ、顧客の要望に迅速に応え、素早く行動するのだ。

❷ 学校名

(12) 法律**新干线**

新干线，新理想。……我们的理想是：搭乘法律**新干线**的快车，在法律时空的通道迅跑！(http://www.lawhighway.net/ 2006.1.5)

法律**新幹線**

新幹線、新理想。……我々の理想は法律**新幹線**の特急に乗り、法律の時間と空間の街道を素早く走りぬけることだ！

❸ 企業名

(13) 大连**新干线**旅行社以“新理念、新创造、新境界”为企业精神，以“大连**新干线**，旅游直通车”为传播口号，完美服务，拓展市场，创造效益，报效社会。……我公司全体员工将以海一样的情怀，欢迎各界朋友搭乘大连**新干线**，呼啸驶向旅游新境界。(http://www.6531.com/gsgk.asp 2006.1.5)

大連**新幹線**旅行社は「新しい理念、新しい創造、新しい境地」を企業精神とし、「大連**新幹線**、旅の直通列車」をキャッチフレーズに、サービスを完璧にし、市場開拓を行い、効果と利益をあげ、社会に貢献します。……当社全社員は海のような広い気

持ちをもって、各界の方々が大連**新幹線**に乗り、旅の新境地へと突き進むことを歓迎いたします。

❹ 番組・コーナー名

(14) 娱乐**新干线**（中国人民广播电台の番組名）

新音乐、新影视、新时尚、新体验，共同打造娱乐新生活。……及时报道最新、最快的音乐、影视、文化等方面的资讯，介绍新人物、新创作、新发行、新出版、新放映的听众喜爱的文艺作品，为听众提供发表艺术见解的平台，与听众展开互动。

（http://www.cnradio.com/china/wenyi/t20040723_504044706.html　2006.1.30）

エンターティメント**新幹線**

新しい音楽・新しい映画・新しい流行そして新しい体験、ともにエンターティメントの新生活をつくりだそう。……タイムリーに最新かつ最速の音楽・映画・文化などの方面の情報を報道し、新しく話題になった人物・新たな創作・新しく発行・出版・放映されたリスナーの好きな文芸作品を紹介、リスナーのために芸術に対する意見を発表する場を提供し、リスナーとインタラクティブに交流する。

(15)《十月》“小说**新干线**”栏目定位于年轻作者有旺盛创造力的中短篇小说新作，7年来，共推出了36位青年作家，刊发的作品已蔚为大观。（《北京晚报》2005.10.24）

『十月』の「小説**新幹線**」コーナーは若い作家の創造力旺盛な短編中編小説の新作発表の場と位置づけられ、この7年、総勢36名の若手作家を送り出し、発刊した作品は既に相当な量にのぼる。

❺ ホームページ名

(16) 医学**新干线**

医学**新干线**深度挖掘互联网医学资源,收集3500多个卫生医药专业网站和功能性网站，经严格评价，精选出2500多个国内外优秀站点，按各部门各专业需要分类，设计成工作、学习界面，是本行业人员或健康、疾病咨询者学习、快速查询的实用系统平台。(http://www.yxxgx.com/　2006.1.10)

医学**新幹線**

医学**新幹線**はインターネット上の医学データを深く掘り起こし、3500余りもの医薬専門サイトや機能性のあるサイトを集め、厳しい評価を経て、2500余りの国内外の優れたサイトを厳選しました。各部門各専門に応じて分類し、仕事・学習の場になるよう設計されており、医療に従事する方あるいは健康や疾病について調べたい方が学び、高速検索できる実用的なシステムのプラットホームです。

❻ システム名

(17) 能进行移动实时视频直播，兼容3G通讯优势的新一代全球移动卫星通信系统——BGAN海事卫星**新干线**今天在京正式开通。(《人民日报》2005.12.22)

移動リアルタイムテレビ放送が可能で、有利な3G通信と互換性のある新世代の全世界移動衛星通信システム——BGAN海事衛星**新幹線**が本日北京で正式に開通する。

❼ 商品名

(18) 阳光**新干线**〔团地〕(《京华时报》2005.6.2) (19)《**新干线**》〔漫画雑誌〕(《江南时报》2005.2.4)

❼は残念ながら説明文をみつけることができなかったが、❶～❻で新

幹線のイメージの影響を受けていると思われる部分を下線で強調した。それをみると、やはり「速い」というイメージから“新干线”という言葉が用いられている。また、(13)(14)(17)の「速い→新しい」・(15)の「速い→新しい→若い」のように意味が広がりをみせていることもわかる。

列車は「駅と駅、出発地から目的地までを結ぶ」ものである。そこから「送り手と受け手を結ぶ」ものというイメージがうかび、さらに“新干线”の高速というイメージが加わって、❶〜❼のように「高速で二者を結ぶもの」全般を指すようになったのだろう。

このように“新干线”が様々な場で使用されているのは、“新干线”のもつ「速い」というイメージが現代社会の求めているものと適応しているからだと考えられる。現に“高速度”(ハイスピード)・“快递”(速達便)など速さに関連する新語が近年いくつもうまれている通り、現代ではなにごとにもスピードが追求されている。

また、“新”という語も使用範囲の広さに貢献している。“族”(共同の行動特徴・趣味をもった人達)から“通勤族”・“暴走族”がうまれたように一語から大量の語が誕生しているのが改革開放後の新語の一特徴だが、“新”も非常に造語力のある語である。《新词语大词典》[23]を引いてみると、“新登场”(新登場)・“新品”(新製品)など“新〜”という見出し語は38語にものぼる。《现代汉语词典》の2002年版[24]と2005年版[25]を比較してみても前者が63語、後者は70語と“新〜”という言葉は確実に増えている。時が移り変わるごとに新しいものがうまれ、それを過去のものと区別し表現する必要がうまれてくるのは世の常である。その際“新”という言葉は非常に便利で、世相を表す語をつくるのに欠かせないものとなり、使用される場も多くなるのではないだろうか。

さらに“干”という字に注目してみよう。日本語の「幹」には「物事の主要部分[26]」という意味がある。これと同様に、中国語の“干”にも“事物的主体或重要部分[27]”(事物の主体・重要な部分)という意味がある。つまり「主要なもの」という日本語の「幹」のもつプラスイメージが中

国語にも通ずるわけだが、このことも“新干线”が広く用いられる一因と考えられる。

各用例から既に明らかかと思うが、文法の面からみると、“—新干线”という前に修飾語をとる構造で用いられることが圧倒的に多い。さきに用いた《人民日报》·《人民日报报系》·《文汇报》の記事から比喩的語義で用いられているものを確認した結果、57件[28]の記事のうち48件、つまり8割以上が“—新干线”の構造であった。その他の構造とは、“新干线—”という後ろに被修飾語を伴う場合や“新干线”単独で用いられる場合であるが、雑誌名・コーナー名、とくに企業名・学校名に用いられる傾向が強い。

4-4. 日本語・類義語との比較

4-3の例文(11)～(19)の中の“新干线”を日本語で表すならば、何であろうか。ニューウェーブ・最前線と様々な訳語が思いつくが、外来語でありかつ鉄道である点を考慮し、一語で表すなら、「エクスプレス(エキスプレス)」が適当であろう。実際、4-1の例文(3)の“新干线”は日本語を翻訳したものであるが、原語はスーパーエクスプレスである。「エクスプレス」は、辞書[29]によれば、

> 「急行の、高速の」の意から、急行便、急行(列車、バスなど)のこと。運送会社。エクスプレスウェー(expressway)は高速道路。

という意味である。「高速の」という意味から「急行便、急行」という意味が派生している点をみると、派生の流れは中国語の“新干线”とは逆だが、(20)のように「高速の」サービスなどに用いられている。また(21)のように“新干线”同様「新しい」という意味もある。

(20) ビジネス**エクスプレス**〔ホームページがYahoo! JAPANに登録可能か否かを迅速にチェックするサービス名〕(www.yahoo.

co.jp/r/bx　2006.1.28）

（21）トリノ**エクスプレス**〔トリノオリンピックの最新結果を掲載する特別紙面〕（『朝日新聞』朝刊 2006.2.10）

この「エクスプレス」を中国語で言い換えるならば、“快车”であるが[30]、“快车”にも“新干线”と同様比喩的用法がある。例えば、《人民日报》の記事の見出しに“资讯快车”（情報エクスプレス）・“时尚快车”（流行エクスプレス）があるが、「速報」の意味で用いられている。

“新干线”と“快车”にはどのような差異があるのだろうか。“新干线”は具体的な高速鉄道名であり、“快车”という「急行列車」より「速い」イメージがわきやすい。「速報」、「事が起きてからはやくすみやかに報された情報」から「新しい情報」という意味が連想されるように「速い」と「新しい」は常に隣合せのものである。したがって、“新干线”と“快车”の二語とも「新しい」という意味を備えていると考えられるが、“新干线”には“新”という字が含まれているため、その字面から「新しい」という意味が明確になっている。

比喩はもとの意味があってこそ成立するものなので、当然だが、4-1でも触れたように“新干线”の比喩的語義は、とりようにより「新しい幹線」の意味にもとれる。先にあげた用例も「速い」と「新しい」の意味を兼ね備えている通り、高速列車「新幹線」からうまれた比喩的語義をもちながら、「新しい幹線」という意味もある。したがって、“新干线”が比喩的に用いられる場合は、「新しい幹線」・「新幹線」・「比喩的語義」の3つが重なり合った掛詞のようになっているのである。

“触电”〔もとは“电流”（電流）に触れることから「感電する」ことを指したが、“电影”（映画）・“电视”（テレビ）の“电”に触れるという解釈から「映画・テレビ関係の仕事に携わったことのない人がそのような仕事を始める」という意味がうまれた。[31]〕のように漢字の意味のとり方を利用した言葉遊びの用法は、中国語において少なくない。この言葉遊びの用法をもち、一語で最大3つの意味を示せる利便性こそが、“快车”

があるにもかかわらず“新干线”が使用される所以であろう。

5. おわりに

以上、日中同形語の観点から新語における比喩的用法の実態を探るべく、“新干线”の比喩的語義について検討した。“新干线”の意味は社会の節目ごとに見事に変化しており、比喩的語義は1994年あたりからみられるようになったということが確認できた。また、新幹線の話題性・プラスイメージが比喩的語義派生につながったということ、さらには“新”・“干”という漢字のプラスイメージの影響も受け、サービス名から学校名まで使用される場が多岐にわたり、語義も「速い」・「新しい」・「若い」と広がりをみせているということも明らかになった。

新語誕生の意義は、心理的視点からいえば、「現代的な新鮮な感じを与える」・「微妙なニュアンスの違いを表現できる」の二つに集約される。“新干线”は外来語であり、乗り物名でありながら速報・高速サービスなどを表す点で新鮮である。また、“快车”との差異のようにニュアンスの違いを表すことができる。“新干线”の比喩的用法はまさに新語誕生の意義と合致しており、“新干线”は新語を語るのに格好の語といえるだろう。

鉄道は我々の生活において、「速い」ことの利便性を最も身近に感じさせてくれるものだが、これも“新干线”の比喩的語義誕生の一要因と思われる。また、エクスプレス・“新干线”と日本でも中国でも鉄道の意をもつ語が高速の事物を指すのは、両国がともに鉄道を重視した国家であるからだろう。事実、中国において鉄道は主力の交通手段であり、その年間旅客輸送量・年間貨物輸送量は世界一多い[32]。そのぶん鉄道に対する関心も強く、「新幹線」に対する興味につながっているのではないだろうか。

本稿では、日本語と異なる比喩的語義のうまれた語として“新干线”一語を扱うことしかできなかったが、“蒸发”〔蒸発する。近年、失踪の意味がうまれた。〕など日本語と同様の比喩的語義がうまれた語でも用法

上差異のあるものが少なくない。今後はそういった語も調査し、新語を通して現代中国語に対し総合的でより深い考察を行っていきたい。

注

1　张韶岩《关于当前汉语中的日语借词》(《青岛海洋大学学报（社会科学版)》2001年第1期)，呉悦・筒井紀美「中国語新語の中の日本語語彙についての研究」(『日中言語対照研究論集』第5号 2003年)

2　姚汉铭著《新词语・社会・文化》(上海辞书出版社 1998年）8-12頁，陈原《关于新语词的随想》(《语文建设》1997年第3期)，郭良夫著《词汇》(商务印书馆 2000年）81-85頁では、「新語は新たにうまれた語だけではなく、新語義の派生した語も含む。」という考えを述べている。一方、李振杰《近十年汉语中新词新义的产生》(《语言教学与研究》1987年第2期）では、「新語とは新たに誕生した語を指し、既存の語に新語義がうまれても、新語とは呼ばない。」という考えをとっている。

3　金田一春彦・林大・柴田武編『日本語百科大事典』(大修館書店 1988年）536頁〔以下『百科』と略称。〕，窪薗晴夫著『新語はこうして作られる』(岩波書店 2002年）52-80頁を参照。

4　姚汉铭注2前掲書107頁の調査によれば、レトリックによる造語法でつくられた新語は新語全体の7.4%ほどであるという。

5　姚汉铭注2前掲書では、107-118頁，杨华著《汉语新词语研究》(黑龙江教育出版社 2002年）では、80-81頁，116-127頁において比喩的語義について触れている。

6　亢世勇・刘海润主编《新词语大词典》(上海辞书出版社 2003年）〔以下《新词语》と略称。〕，商务印书馆辞书研究中心编写《新华新词语词典》(商务印书馆 2003年）〔以下《新华》と略称。〕，曲伟・韩明安主编《当代汉语新词词典》(中国大百科全书出版社 2004年）を主に用いた。

7　史有为著《外来词: 异文化的使者》(上海辞书出版社 2004年）291頁。

8　《新词语》1337頁。

9　中国社会科学院语言研究所词典编辑室编《现代汉语词典》〔以下《现汉》と略称。〕第5版（商务印书馆 2005年)，辞海编辑委员会编纂《辞海》1999年版彩图本（上海辞书出版社 2000年)，汉语大词典编辑委员会汉语大词典编纂处编纂《汉语大词典》(汉语大词典出版社 1997年)，

大東文化大学中国語大辞典編纂室編『中国語大辞典』（角川書店 1994年）〔以下『中国』と略称。〕，商務印書館・小学館編『中日辞典』第2版（小学館 2003年），相原茂編『講談社中日辞典』第2版（講談社 2002年），相原茂・荒川清秀・大川完三郎主編『東方中国語辞典』（東方書店 2004年）には“新干线”は収録されていない。

なお、『東方中国語辞典』には、“干线”の用例に「新干线/新しい幹線」とあるが、比喩的語義については明記されていない。対外経済貿易大学・商務印書館・小学館編『日中辞典』第2版（小学館 2002年）には見出し語として「新幹線」があるが、いわゆる乗り物の意味のみで、比喩的語義は記されていない。

10 刘正埮等编《汉语外来词词典》（上海辞书出版社 1984年）114頁には、“干线　交通线、电线等的主要路线。源 日 幹線kansen（幹線　交通線、電線などの主要路線。来源 日本語の幹線kansen）”と記載されている。また、『中国』1016頁にも「干线〔名〕①（鉄道などの）幹線.（水道・送油パイプなどの）本管.幹線路；日語.」とある。

11 《现汉》注9前掲書446頁。

12 金田一京助他編『新明解国語辞典』第五版（三省堂 1997年）296頁。

13 久保田博著『鉄道用語事典』（グランプリ出版 2003年）134頁。

14 梅棹忠夫他監修『講談社カラー版日本語大辞典』第二版（講談社 1995年）1096頁。

15 1946～1994年はCD-ROM版全文データベース《人民日报五十年图文数据系列光盘》（人民日报出版社）を用い、1995～2005年はインターネット上のデータベース、人民网《人民日报报系搜索》（http://search.peopledaily.com.cn/was40/people/GB/index.htm#3　2006年1月20日）を使用した。

16 『百科』385頁。

17 愛知大学現代中国学部編『ハンドブック 現代中国』（あるむ 2004年）110-113頁を参照。

18 記事の検索には《文汇报电子版》（http://whb.news365.com.cn/dzsearch/search_bd.htm　2006年1月30日）を用いた。

19 《人民日报海外版》，《环球时报》，《江南时报》，《讽刺与幽默》，《健康时报》，《华东新闻》，《华南新闻》，《国际金融报》，《市场报》，《中国汽车报》，《京华时报》，《大地》，《中国质量万里行》，《新闻战线》，《时代潮》，《人民论坛》，《中国经济快讯周刊》，《上市公司》，《汽车族》，《人民文摘》，《新安全》を指す。記事の検索には人民网《人民日报报系搜索》（注15に同じ）を用いた。

20　サーチナ総合研究所編『中国消費者の生活実態—サーチナ中国白書2005～2006—』（株式会社サーチナ 2005年）160頁。
21　松村明編『大辞林』（三省堂 1988年）2061頁。
22　田本相・刘一军主编《曹禺全集》第六卷（花山文艺出版社 1996年）473頁。
23　《新词语》1335-1340頁。
24　《现汉》2002年增补本（商务印书馆 2002年）1401-1403, 1724-1725頁。
25　《现汉》注9前掲書1515-1517頁。
26　注21に同じ、2312頁。
27　《现汉》注9前掲書445頁。
28　ただし、この中には“新干线政权”という日本の政権についての記事が1件含まれている。
29　『現代用語の基礎知識2006』（自由国民社 2006年）1506頁。
30　上海译文出版社编译《日汉大辞典》（上海译文出版社 2002年）230頁, 秦延通主編『日中外来語辞典』（東方書店 2002年）85頁を参照。
31　《新华》38頁を参照。
32　社団法人海外鉄道技術協力協会編『最新 世界の鉄道』（株式会社ぎょうせい 2005年）432頁を参照。